

学校だより
「まんだ」
No. 6

自他を大事にする子供 学び続ける子供 共に未来を切り拓く子供



認める力

やりぬく力

表現する力

子供って、時折、大人では理解しがたい行動をとることがありますよね。歩道の縁石を歩いてみたり、消しゴムを定規で切ってみたり、赤白帽子を赤白半々にしてウルトラマンのようにかぶってみたり、傘をさかさまにして雨水をためてみたり…。危険なことや人に迷惑をかけることでなければいいのだけれど、たまに、注意しないといけないこともあります。そんな時、大人はカッとして、「どうしてそんなことをしたの?」と怒ってしまいますが、無意識でやっていることなので、本人もわからないことがほとんどです。

先日、傘をまるで掃除機をかけるように（傘の先端を地面に突き刺すように）持って登校している子がいます。すると、当然、地面の凸凹に傘の先端が突っかかり、急ブレーキがかかります。一瞬、「危ないよ」とか「傘が壊れるよ」とか、声をかけようかと思いましたが、やめました。「きっと、この子は舗装された歩道のガタガタする感覚を傘を通して感じ取っているのだろう。そして、時折引っかかる感覚を楽しんでいるのだろう。」そう思ったからでした。梅雨の合間のつかの間の曇り空。それくらいいいじゃないかと。

「遊び」はもともとそれ自体が目的なので、「遊び」には大人が考えるような意味は、そもそもありません。大人の考えが及ばない、限りなく自由な世界です。最近、その子供にとっての自由な世界を、大人が管理してしまっていないか?と思うことがあります。子供にとって便利なことや楽なことの多くは、子供の自由を奪っているように思うのです。※例えばスマホ。子供たちはスマホに自由を奪われていませんか?そして、人が管理すべきは、子供ではなくスマホです。

さて、先ほどの傘を掃除機のように持て歩いていた子供。しばらくすると、満足したのか、自分からやめました。「今日は午後から、また雨が降るかもしれないね。」というと、自分の傘を見つめながら静かにうなずきました。子供たちは、自分で歩いてくるという「不便」の中に「遊び」を見つけ、感覚や想像力を身に付けていくのだと思います。

命の危険を感じる暑さ

梅雨が明けたとたんに暑くなりました。しかも命の危険を感じる暑さです。学校では、エアコンを上手に使いながら、子供たちの健康を守っていきたいと思います。

6月30日(月)、2年生の担任の先生が、「失敗したー。もう、これダメですかね?」といっています。見てみると、2年生の子供たちが大事に育ててきたトマトが、干からびています。金曜日にはたっぷり水をやって帰ったのに、土日の暑さで枯れかかっているのです。ほかの先生からは「さすがにもうダメだろ!」と言ひ放たれて、2年生の担任の先生もショックを受けています。

トマトは、もともと乾燥地に育つ植物。トマトを見くびってはいけません。「根元にたっぷり水をやってみよう。何とかなるかもしれませんよ。」と言いました。トマトの復活を願い、2年生の先生と二人で水をやりました。果たして、トマトの運命やいかに。

次の日、なんとほとんどのトマトが勢いを取り戻しています。「さぞのどが渴いていただろう。」トマトの命を感じながら、子供たちも水をやってくれるといいのだけれど。

学校の対応も変わらざるを得ない状況です

今回の紙面、いつもと違うと思いませんか?学校だよりから写真をなくしました。これまで、子供たちの学びの姿を、保護者、地域の方々にできるだけリアルに伝えていこうと、私なりの視点で文章にしたり写真掲載したりしてきましたが、全国のニュースでご存じのとおり、校内で写真を撮ることがはばかられる状況です。もちろん、学習で必要であったり、記録写真が必要な場合もあったりしますが、そういう場合であっても、児童も職員も、複数の人間が見ているところで、公用のタブレットで撮影するようにしたいと思います。

私自身も、これまで私用のスマホを常に携帯するようにしていたのですが、校舎を見回るときは携帯しないようにしたいと思っています。そこで、これからは、他の先生方が記録用に撮影した写真を提供いただきながら作成しようと思います。写真が少な目になりますが、どうかご理解をよろしくお願ひします。

もう一つ。今年の5月に、東京立川市の小学校で、母親の知人と名乗る男2人が暴れたという事件があつたのを覚えていらっしゃるでしょうか?その事件を受けて、万田小でも、部外者の侵入を防ぐため、登下校の時間帯以外は、児童の昇降口の入口ドアは閉めておくようにしたいと思っています。正門の門扉は、引き続き閉めておきます。これらについては、警察署からも指導をいただいたところでしたので、保護者来校時には少しご面倒をおかけしますが、安心・安全な学校づくりのため、ご理解をよろしくお願ひします。